教育コンテンツの体系化による 効率的なSEPGの育成

NTTデータ SIコンピテンシー本部 SEPG プロセス改善推進担当 矢部 智



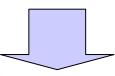
アジェンダ

- ●背景 コーポレートSEPGの位置づけ
- ●課題 SEPGの育成
- ●対策 教育コンテンツの体系化
 - ○コンテンツの例
- ●効果
- ・まとめ
- ●今後の課題
- ●参考文献・商標

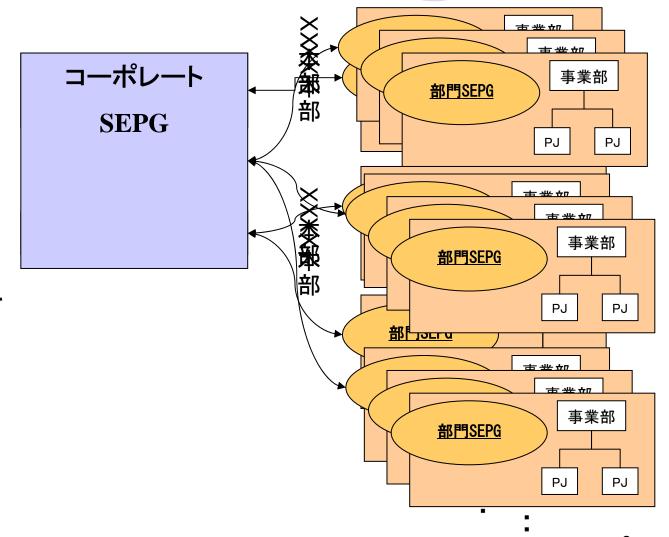


背景 コーポレートSEPGの位置づけ

個別組織に対して CMMIに基づくプロ セス改善を推進す るのが目的



- 全社にCMMIに基 づくプロセス改善を 推進するのが目的
 - 全社のプロセス改善 善
 - 個別組織のプロセ ス改善支援







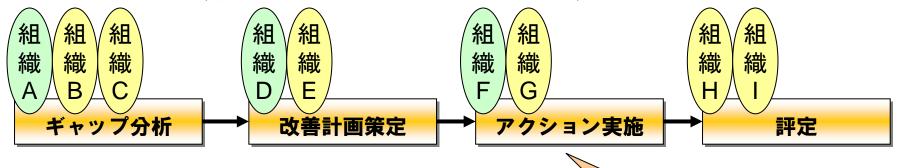
課題 CMMIの全社展開

- CMMIの全社展開にともない、部門SEPGの育成需要が 急増した
 - ○育成目標:30名
 - OSEPGに求める能力:
 - CMMIモデルの理解(ギャップ分析・改善計画策定)
 - 改善活動の理解(アクション実施)
 - ●知識体系のまとめ(評定)



課題 組織ごとのCMMIの進み具合の違い

改善プロセスのフェーズの違い



- ◆各組織が別々のフェーズ・ 成熟度レベルにある
- •進み方のペースも違う

成熟度レベルの違い

成熟度レベル2・3 成熟度レベル4・5





課題 SEPG育成のあるべき姿

従来	今後
正式な教育はCMMI入門コースのみで、あと はOJT	改善プロセス全体をカバーする体系的な教育プログラムを整備
コーポレートと本部の2カ所に同じようなコン テンツを作成・蓄積	コンテンツは一箇所に集約
改善プロセスのフェーズ・成熟度レベルが変わるたびにその都度別個に教育コンテンツを 作成	改善プロセスのフェーズ・成熟度レベルに あった教育コンテンツをタイムリーに提供

対策 教育コンテンツの体系化

- ●体系化の軸を決める
 - ○改善プロセスのフェーズ(ギャップ分析、改善計画 策定、アクション実施、評定)は網羅したい
 - ○成熟度レベル(2・3と4・5)の区分も欲しい



対策 教育体系にまとめ上げる

改善プロセスのフェーズ・成熟度レベルを軸に、集めたコンテンツを並べ直す

軸	ギャップ分析	改善計画策定	アクション実施	評定
成熟度 レベル 4·5	①高成熟度レクチャー②インタビュー項目	①プロセス実績モデル構築チェックリスト ②バランススコアカード ③SCAMPI version 1.2報告事例 ④レベル4プラクティス実装説明 ⑤目標・プロセス・尺度の関連のロジックツリー ⑥アプレーザルを通して得られたCMMIレベル4に関する知見 ⑦統計基礎	①管理図見本	
成熟度 レベル 2·3	①CMMIの概要 ②CMMI適用プロセス ③ギャップ分析手順 ④ギャップ分析計画 ⑤プロセス領域の分 かりやすい説明 ⑥CMMI入門コース	①やさしいCMMI用語集 ②小テスト ③対応計画 ④SPI計画書 ⑤PA解釈問い合わせ ⑥FAQ	①組織プロセス見本 ②PA解釈問い合わ せ	①評定タスクフロー②ATMトレーニング③PIIDS④インタビューシナリオ⑤格付けのルール⑥発見事項



例1 プロセス領域の分かりやすい説明

区分	ML	プロセス領域名 (英語名)	略語	社内の 類似用語/概念	説明
	2	要件管理 (Requirements Management)	REQM	仕様管理 仕様変更管理	要件に対するすべての変更を管理し、また、要件と成果物間の不整合を特定し、必要に応じて是正することにより、プロジェクトの全期間にわたり最新で承認された要件を維持する
エン	3	要件開発 (Requirements Development)	RD	要件定義	顧客要件、成果物要件、成果物構成要素(成果物を構成する各要素)の要件を作成・分析する
ジニアリング	3	技術解 (Technical Solution)	TS	設計 製造	要件に対する解(仕様)を設計・実装する
	3	成果物統合 (Product Integration)	ΡΙ	結合試験 総合試験 インタフェース管理 移行/納品	分割して実装した成果物構成要素を統合し、成果物として適切 に機能することを確認し納入する
	3	検証 (Verification)	VER	レビュ ー 試験	成果物が要件を満たすことを確認する
	3	妥当性確認 (Validation)	VAL	レビュ ー 試験	成果物が実際にユーザが使用する環境で用途を満たすことを 実証する





例2 やさしいCMMI用語集



27.正式評価プロセス (DAR)

- 定義
 - プロジェクトに影響の大きい問題の解決法を選択するときに、複数の案を出して評価し、選定するプロセス
- なんのため?
 - あとで「なぜこれを採用したんだろう。基準は何だったんだろう。」と悩まないため。
- 事例

SP1.1 いつ、DARを使うのか

		SP1.3		
SP1.2 SP1.4	案1	案2	案3	
性能	5	4 SP1.5	4	
コスト	3	5	4	
保守性	4	5	5	
総合	0	0	Δ	
	SF	21.6	······································	

この例では評価は5段階





例3 小テスト



- Q1. 次の括弧内に当てはまる用語を下記の用語群の中から選択し、その記号を記入しなさい。
- (1) CMMIとは、組織の()の能力が向上していく過程を()なレベル表現でモデル化したもの
- (2)CMMIとは、プラクティス=()される構成要素・要件の集合体である
- (3) CMMIレベル3 「定義された段階」に達した組織には、()レベルで 定義された()と()が存在する

【用語群】

- a. プロセス改善 b. 保守・運用 c. 開発プロセス d. 漸進的 e. 段階的
- f. 構造的 g. 想定 h. 期待 i. プロジェクト j. 開発グループ k. 組織
- I. 体制 m. プロセス n. 資産 o. 指揮系統



例4 高成熟度レクチャー

レベル4の用語 5/5

プロセスの安定性

プロセス能力

限界值

プロセス実績モデル

・基本的な考え方(まずこの関係を把握してほしい)

2. プロセス/プロジェクト の終了段階を予測する ためにプロセス実績

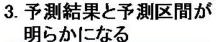
1.安定した(サブ)プロセス を入力として

M

プロセス 実績 モデル

モデルを使うと

このとき、少なくともプロセスの中央(値)の傾向 や分散、つまり<mark>このプロセスの能力</mark>が理解され ている必要がある (QPM SP 1.4参照)









12

効果

- コーポレートSEPGのメリット
 - ○各組織に支援に行くときの準備時間が短縮できた
 - ○各組織がどの改善のフェーズにあっても、同じコンテンツを使って教育できるようになった
- ●部門SEPGのメリット
 - ○「いつ」「何を」勉強すればよいのかが明確になった
 - ○各組織のSEPGが作成する成果物の記述項目が均一 化された(プロセス定義書・SPI計画書)



まとめ

- ●体系化の手段として、二つの軸を使用した
 - ○改善プロセスのフェーズ
 - ○成熟度レベル
- 体系化された教育コンテンツを用意することにより、「いつ」「何を」提供すればよいかが明確になった



今後の課題

- ●時代の変化についていけるように、常に最新の技 術動向を取り込む工夫
- 空白となっている軸のコンテンツ作成
- 軸の追加についての検討
 - ○スポンサー教育
 - ○管理者教育
- スキルセットの認定
 - ○全社の人材開発担当との連携



参考文献•商標

- CMMI Second Edition
- ●現場力を組織力へ~ものづくりへのプロセス適用 支援での一考察~(SPI Japan 2006)
- X CMMI, SCAMPI, and IDEAL are service marks of Carnegie Mellon University.

